

所報 2024

おおすみ



咲花平山頂【日帰り親子ハイキング教室】



アコウの丘【SEA TO SUMMIT FOR Children】

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家



はじめに

国立青少年教育振興機構は「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、青少年の体験が不足している状況を踏まえ、全国に28ある施設がそれぞれの立地・環境を活用した体験活動の機会と場を提供しています。

当国立大隅青少年自然の家「おおすみくん家」は、背後に高隈山系、眼下に錦江湾と豊かな自然環境に囲まれたところに立地しており、その自然資源を活かし海浜活動、ハイキング、自然工作、野外炊事等のプログラムを提供しています。

当施設の利用については、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月9日に感染症の区分が5類に変更になったことで拡大防止対策を一律にとる必要がなくなりました。そのような中でも令和5年度は、小中学校の宿泊学習や青少年団体の活動、高校・大学の合宿、企業研修等日帰りも合わせ約4万6千人の方々にご利用いただきました（令和4年度は約3万1千人）。

また、当施設が主催して行う教育事業については、新型コロナウイルス感染症拡大や天候不良により当初の計画から1事業を中止としましたが、青少年や家族を対象とした体験活動事業や指導者等の研修に関するものなど計17事業を実施しました。

中でも看板事業で長期自然体験活動の「海からのメッセージ」では、台風の影響で期間を短縮して5泊6日から2泊3日へと変更して事業内容も大隅半島内にある鹿屋体育大学海洋スポーツセンターでのSUP等の海浜活動や当施設新城海の家での「軽石クラフト」活動等に見直しました。そうした中でも長期自然体験活動が生きる力に及ぼす影響や水分補給状況と適正水分摂取量等の貴重な研究データを収集することができました。

新規事業としては、錦江湾の軽石クラフトを活用した特色あるプログラム事業「TRY CAMP」や人力で海里山の自然の循環を体感する事業「SEA TO SUMMIT for Children」に取り組みました。

また、全国高校生体験活動顕彰制度「地域探求プログラム」オリエンテーション合宿に参加しました高校生が全国第2位の当機構理事長賞を受賞しました。

本報告書はこれら教育事業の実施概要とその成果と課題についてまとめたものです。是非御一読いただき、忌憚のない御意見・御助言等いただければ幸いです。

おわりに、当施設の事業運営に御支援・御協力をいただきました関係機関、関係各位の皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和6年10月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家
所 長 吉 松 純 昭

目 次

はじめに

I	令和5年度教育事業等の実績一覧	1
II	教育事業等の実施状況	
	TRY CAMP in おおすみくん家	3
	地域探究プログラムオリエンテーション合宿	4
	体験活動普及啓発事業 キッズたんけんたい	5
	体験活動普及啓発事業 おおすみくん家通学合宿	6
	体験活動普及啓発事業 SEA TO SUMMIT for Children	7
	体験活動普及啓発事業 日帰り親子ハイキング教室	8
	体験の風をおこそう スポーツキャンプ 野球	9
	体験の風をおこそう スポーツキャンプ バスケットボール	10
	体験の風をおこそう ロボプロキャンプ	11
	体験の風をおこそう 登山教室	12
	体験の風をおこそう スポーツクライミング教室	13
	子ども生き生き体験学習	14
	ボランティア養成研修	15
	体験の風をおこそう フェスティバル秋 in アミュ広場	16
	ふれあいデー フェスティバル冬 in おおすみくん家	17
III	令和5年度における傷病発生状況	18
IV	利用者数・利用団体数の推移	20
V	令和6年度 国立大隅青少年自然の家運営方針	22
VI	令和6年度 教育事業等の計画一覧	29

【別冊】文部科学省委託事業 海からのメッセージ

令和5年度 国立大隅青少年自然の家 教育事業等実績一覧

I 青少年教育に関するモデル的事業

1 実践研究事業(1ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
1	文部科学省受託事業 海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや 厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。 また、実践研究として体験活動の重要性の普及に 努める。	【事前研修】 7. 23(日) 日帰り 【事業本番】 8. 16(水)～18(金) 2泊3日 ※8/6～11(5泊6日)で計画していたが、 台風6号接近に伴い期間変更	小学5年生～中学生	20	18人(95人)

2 特色化事業(1ーイ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
2	TRY CAMP inおおすみくん 家	自然体験・生活体験を通して、子どもの豊かな情 操を養う。また、漂流物を通して、環境問題に自ら 取り組むきっかけとする。	5. 27(土)～28(日) 1泊2日	小学4年生～中学生	30	30人(269人)

3 地域探究プログラム(1ーウ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
3	全国高校生体験活動顕彰制 度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿	地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら 見出したりする探究活動を通して、ものごとを探 究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に 必要な考え方・知識を学習する。	7. 15(土)～17(祝月) 2泊3日	県内高校1・2年生	20	6人(応募同数)

II 社会の要請に応える体験活動等事業

1 自然体験や読書活動等に親しむ事業(2ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
4	体験活動普及啓発事業 おおすみくん家 キッズたんけんたい	小学校中学年の子どもたちが親元を離れて共同 生活や自然体験活動を行い、仲間と関わる活動を通 して、自立心や自尊感情を育てる。	10. 28(土)～29(日) 1泊2日	小学3・4年生	40	36人(189人)
5	体験活動普及啓発事業 おおすみくん家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学 校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や 学習習慣を身につける。また、読書活動を通して 豊かな情操を養う。	1月～2月(全10回) 2泊3日	小学4～6年生	各30	238人(261人)
6	SEA TO SUMMIT for Children	海や山、自転車の活動を通して、自然を大切に する心を養い、青少年の健全育成及び環境教育 を支援する。	10. 21(土)～22(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	20	20人(26人)
7 8 9 10 11	日帰り親子ハイキング教室 ①～⑤	ハイキングや登山を身近に感じてもらうとともに、 チャレンジ精神を養い、達成感を味わう。	①11. 5(日) 咲花平コース ②11. 12(日) 万滝コース ③11. 26(日) 咲花平コース ④12. 16(土) 鳴之尾コース ⑤12. 23(土) 咲花平コース	体験活動に興味の ある家族	各30	① 32人 ② 23人 ③ 18人 ④ 48人 ⑤ 17人

2 自己成長や自己実現を図る事業(2ーイ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
12	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体 力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるス ポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向 上を図り、青少年の自立を支援する。	6. 18(土) 1日	中学生部員及びその 指導者	80	かごしま国体開催 のため中止
13	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体 力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるス ポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向 上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 22(土) 1日	中学生部員及びその 指導者	80	8チーム86人 (応募同数)
14	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体 力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるス ポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向 上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 29(土)～30(日) 1泊2日	中学生部員及びその 指導者	80	1チーム27人 (応募同数)
15	ロボット・プログラミング 体験教室	ロボット操作やプログラミング学習を体験するこ とで、論理的な思考を身につけるとともに、自分の進 路や将来を考えるキャリア教育の機会となる。	9. 16(土)～17(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	20	29人(117人)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	参加者数(応募者数)
16	登山教室	登山を通して、自然と関わることの素晴らしさやスポーツとしての登山の楽しさを味わう。	11. 18(土)～19(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	20	17人(37人)
17 18 19 20 21	スポーツライミング教室 ①～⑤	スポーツライミングを身近に感じてもらうとともに、困難に立ち向かうチャレンジ精神を養う。	①12. 10(日) ②12. 17(日) ③12. 24(日) ④ 1. 21(日) ⑤ 1. 28(日)	子ども・家族	各30	① 25人 ② 27人 ③ 28人 ④ 35人 ⑤ 30人

Ⅲ 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業(3-ア)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	参加者数(応募者数)
22 23 24 25 26	おおすみくん家に遊びに来ませんか!! ①～⑤	不登校及び不登校傾向のある小・中学生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	① 6. 17(土) ② 8. 26(土) ③10. 21(土) ④11. 18(土) ⑤ 1. 20(土)	不登校及び不登校傾向のある小・中学生	各10	① 8人 ② 6人 ③ 7人 ④ 3人 ⑤ 2人
27	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験・生活体験等を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。	7. 26(水)～27(木) 1泊2日	児童養護施設の児童生徒 ※仁風学園	15	14人

Ⅳ 青少年教育指導者等の養成・資質向上研修

ボランティアの養成・研修事業(5-イa)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	参加者数(応募者数)
28	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6. 3(土)～4(日) 1泊2日	高校生以上	40	宿泊 37人(41人) 日帰り 2人(3人)

Ⅴ 独自事業

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	参加者数(応募者数)
29 30 31	宿泊学習等利用者説明会 ①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実する。	①4. 12(水) ②4. 19(水) ③8. 23(水)	学校・青少年団体等の引率者	各20	① 21校21人 ② 18校19人 ③ 26校43人
32	子どもゆめ基金募集説明会【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和6年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	鹿児島 9. 3(土)	申請予定団体	各50	鹿児島県 14団体15人
33	フェスティバル秋inAMU広場	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	9. 10(日)	一般	3000	9,132人
34	ふれあいデー「フェスティバル冬inおおすみくん家」	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	12. 2(土)	一般	500	330人

令和5年度 地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業） TRY CAMP in おおすみくん家 ～錦江湾を楽しみ尽くせ～

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験を通して、子どもの豊かな情操を養う。また、漂流物を通して、環境問題に自ら取り組むきっかけとする。
- 2 期 日 令和5年5月27日（土）～28日（日） 1泊2日
- 3 参加対象 小学4年生～中学3年生
- 4 募集定員 30人程度
- 5 参加者 30人（申し込み：269人）
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員4人、法人ボランティア5人
- 7 日 程



5月27日（土）	5月28日（日）
12:50 集合・受付	6:30 起床
13:00 出合いのつどい・仲間づくり	7:00 朝食（野外調理）
14:00 釣り体験	7:40 テント撤収
16:30 テント設営	8:30 軽石と遊ぼう
17:30 夕食（野外調理・魚調理体験）	12:00 別れのつどい
20:00 シャワー・自由時間	13:00 解散
21:30 就寝	

- 8 事業運営上の配慮
- たくさんの参加者と関わらせるために、班を固定せず、プログラムごとに班決めを行った。
 - 危険度の高いプログラムでは、事業前にボランティアへ研修を行い、各班に必ず中学生がいるように班構成を工夫するなど安全に配慮した。
- 9 参加者の感想
- 今回さまざまな体験をすることができ、自分もほんの少し成長できた気がします。今後このような活動があれば参加してみようと思います。ありがとうございました。
 - 友達が増えて楽しかった。また参加したいなと思いました。
 - みんなと交流をいっぱいすることがとても楽しかった。
 - 軽石で遊ぶことがなかったので、楽しい経験ができてよかった。
- 10 保護者の感想
- 風が強くてボートで釣りが出来なかった事を残念がっていました。ご飯を上手に炊けたことや、カートンドッグがとっても美味しかったみたいです！グループ分けが色々でたくさんの友達ができたと喜んでいました。
 - 製作課程をよく覚えていたようで溶かし固め、新たなかたまりができ、溶岩について、軽石の成分について、帰宅時からずっとおしえてくれました。団体キャンプにはよく参加していますが初めてが多く、軽石を溶かす体験はかなり刺激があったようです。
- 11 成果と課題（●は課題）
- 班編成を工夫することで、人と関わることの楽しさ、協力することの大切さを実感してもらえることができた。
 - 兄弟での申込を可能としたことで、下の子の応募と一緒に中学生の申込を獲得することができた。
 - 錦江湾には当たり前にある軽石をプログラム化したことで、身近なものから考える時間を持つことができた。
 - 研修プログラムにするには危険度が高い工程があるため、活動方法や手順を精査する必要がある。



令和5年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

1 趣 旨 地域の魅力や抱えている課題を自ら発見し探究する活動を通して、ものごとを深く追究する姿勢や主体的に取り組む態度を養い、実践活動に必要な知識・考え方を習得するとともに、実際の行動へと踏み出し地域に貢献する意欲を高める。

2 期 日 令和5年7月15日(土)～7月17日(月・祝) 2泊3日

3 対 象 者 日本在住の高校生及びそれに相応する学籍か年齢にある者

4 募集定員 20名(参加者6名)

5 指 導 者 鹿屋市柳谷町内会(やねだん) 代 表 豊重 哲郎 氏
鹿屋本町一番商店街振興組合 理 事 長 遠矢 達一 氏
副理事長 久木田 弘 氏
鹿屋市本町町内会 会 長 久木田 正輝 氏 (他、大隅青少年自然の家職員)



6 日 程

7月15日(土)		7月16日(日)		7月17日(月・祝)	
9:00 ~ 9:20	受付	7:00 ~ 9:00	朝食・記念撮影	7:30 ~ 8:30	朝食・準備
9:30 ~ 10:20	ガイダンス1h	9:00 ~ 9:50	講義・演習 「課題解決の基礎」2h	9:00 ~ 9:50	講義・演習 「行動計画の基礎」2h
10:20 ~ 11:10	講話 「地域づくりの実践」1h	9:50 ~ 10:40		9:50 ~ 10:40	
11:10 ~ 11:15	準備	10:40 ~ 12:20	フィールドワーク②2h	10:40 ~ 11:30	発表1h
11:15 ~ 12:15	昼食・休憩	12:20 ~ 13:20	昼食・休憩	11:30 ~ 12:30	昼食・休憩
12:15 ~ 13:05		13:20 ~ 14:10	フィールドワーク①1h	12:30 ~ 13:30	実践活動のための ガイダンス1h
13:05 ~ 13:55	フィールドワーク①4h	14:20 ~ 15:10		13:30 ~ 14:00	閉講式
13:55 ~ 15:35		15:10 ~ 16:00	講義・演習 「地域課題の探究」3h	15日【導 入】4科目 8 単位 16日【探 究】4科目 9 単位 17日【地域課題】3科目 4 単位 ※計 21 単位(50分=1単位) *最終日「発表」では、今後やってみたいことや地域での活動計画を受講者が発表します。これまでに関わってもらった指導者をはじめ、市内でまちづくりや社会教育・生涯学習に従事している方々にも参観いただく予定です。	
16:00 ~ 16:50	講義・演習 「地域理解」2h	16:00 ~ 16:50			
16:50 ~ 17:40		16:50 ~ 17:40	発表1h		
18:00 ~ 19:00	諸連絡・夕食	18:00 ~ 19:00	諸連絡・夕食		
19:00 ~ 20:00	入浴	19:00 ~ 20:00	入浴		
20:00 ~ 21:30	自主学習・自由交歓	20:00 ~ 21:30	自主学習・自由交歓		

7 事業運営の配慮

- 夏場の食中毒感染リスクを考慮して、フィールドワーク先での弁当提供を取り止め、現地飲食店での食事に変更した。(2日目の昼食)
- 参加者6名を2グループに分け、両グループによるプレゼンの機会を設けて、お互いが切磋琢磨しながら発表ができるようにした。
- 最終日の発表では、県教育委員会や鹿屋市役所の職員に参観してもらい、参加者の発表についての講評や今後の地域実践活動に向けてエールを送っていただく機会を設けた。

8 参加者の感想

- 考え方が深まったり、地域の課題を見つけたりすることができた。
- 社会見学としても、探究としても、とてもよい勉強になった。



9 成果と課題(○成果 ●課題)

- 全国高校総合文化祭鹿児島県大会の開催時期と重なる状況下で、応募者6名で実施することができた。
- 最終日の発表では、県教育委員会から2名、鹿屋市役所から7名の臨席があり、参加者と交流できた。
- 地元(大隅地区)からの参加高校生を募る。(近隣高校や教育委員会への広報・事業説明の強化)

令和5年度 体験活動普及啓発事業 キッズたんけんたい

- 1 趣 旨 小学校中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わる活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。
- 2 期 日 令和5年10月28日(土)～29日(日) 1泊2日
- 3 参加対象 小学3～4年生
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参加者 36人(申し込み:189人)
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員3人、法人ボランティア5人



7 日 程

10月28日(土)	10月29日(日)
10:00 集合・受付	6:00 起床
10:30 開会セレモニー	7:30 朝食 (レストラン)
12:00 昼食 (レストラン)	8:45 クラフト (毛糸ボール)
13:00 オリエンテーリング・クラフト	10:00 野外炊飯 (カボチャシチュー)
17:30 夕食 (レストラン)	13:00 閉会セレモニー
18:30 キャンプファイヤー	14:00 解散
20:00 入浴	
21:30 就寝	

8 事業運営上の配慮

- 片付けまで参加者がやりきれるように、時間に余裕を持ったスケジュールとした。
- ボランティアが主体性を持って参加できるよう、前泊でミーティング・準備・役割分担を行った。

9 参加者の感想

- 初めてやるのがたくさんあってよかった！
- 知らない友だちと仲良くなれてよかった。
- 家族がいないので初めて分かったことがあった。
- 初めて自分から友だちに話せた。
- クラフトやキャンプファイヤーが楽しくて、感動した。

10 成果と課題(●は課題)

- キャンプファイヤーなど未経験の参加者が多い活動を取り入れたが、事前の注意喚起・練習等を入れることで安全に実施できた。
- 他者の協力が必要なクラフト活動を意図的に設定することで、参加者同士で声を掛け合いながら活動を行っており、その後の活動でも声かけの様子が見られた。
- 野外炊飯は危険箇所が多く、目が届きにくい活動になるため、言葉と共に視覚での注意喚起や見守りの目を増やす等を検討する必要がある。



令和5年度 体験活動普及啓発事業 「おおすみくん家 通学合宿」

- 1 趣 旨 集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身につける。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
- 3 期 間 令和6年1月11日(木)～ 2月15日(木) 計6週(全10回)
(各学校で2泊3日の実施期間を指定)
- 4 対 象 者 鹿屋市・垂水市内の小学4～6年生(学校までの所要時間約30分圏内の小学校)
- 5 募集定員 各回30人程度(全10回 申込み261名 238名参加)
- 6 講 師 絵本専門士 西元 道子 氏(鹿児島第一幼稚園 園長代理)
絵本専門士 森 ゆかり 氏
- 7 日 程



初日		2日目		最終日	
		6:00	起床・身支度・清掃	6:00	起床・身支度・清掃
		6:45	朝食	6:45	朝食
	保護者により 自然の家まで送る	7:30	自然の家バスで登校	7:30	自然の家バスで登校
17:00	受付	8:00	(学校生活)	8:00	(学校生活)
17:15	出会いのつどい				
18:00	オリエンテーション	16:15	自然の家バスで下校	放課後	学校から
18:30	夕食	こ	※学校の校時表通り		そのまま帰宅
19:00	宿泊室入室	17:00	学習		
19:15	入浴	18:00	夕食		
20:00	学習・レクリエーション	19:00	入浴		
		20:00	絵本専門士による 読み聞かせ		
21:30	翌日の準備	21:30	翌日の準備		
22:00	就寝	22:00	就寝		



- 8 事業運営上の配慮
- コロナ禍で奪われた体験の機会を提供できるよう応募者全員を受け入れた。
 - 初日のオリエンテーションで、本事業の趣旨を参加児童全員に説明し、基本的な生活習慣の定着に向けて「おおすみくん家通学合宿7つの約束」の意識化を図った。
 - 健康チェックシートを各班に配布し、就寝前・起床後に班員の健康状況の把握に努めた。
- 9 参加者の感想
- スマホやテレビのない環境で夜更かしすることなく、規則正しい生活ができた。
 - いつも家では自分でしないことをしたので、あらためてお母さんやお父さんに「ありがとう」という気持ちを持った。ルールを守ることはとても大切ということを知った。
 - この年になって、絵本を読む機会がほとんどなかったの、とても新鮮だった。小学生が絵本を読んでもとても楽しいものだと分かった。
- 10 成 果
- 鹿屋市教育委員会との連携により、「中1ギャップ」解消のため参加対象校を3校増やして実施した。
 - 鹿児島県内に在籍する「絵本専門士」のスキル発揮の場や機会を提供することができた。
- <事後アンケート結果の自由記述より>
- 参加児童自身が自分の日常生活をふりかえり、親の有難みを感じることができたのと同時に、自立に向けて自分にできることが何かを考えてもらう契機になった。
 - 参加児童が絵本に触れる機会を通して、本を読む楽しさや面白さを感じてもらうことができた。

令和5年度 国立大隅青少年自然の家 鹿屋体育大学 共催事業 SEA TO SUMMIT for Children 2023 in 大隅

- 1 趣 旨 人力で海から里そして山へと進む中で、自然の循環を体感し、かけがえのない自然について考えるとともに、仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら克服する喜びを味わう。
- 2 期 日 令和5年10月21日(土)～22日(日)
1泊2日
- 3 参加対象 小学4年生～中学3年生
- 4 募集定員 20人
- 5 参加者 20人(申し込み:26人)
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員4人
鹿屋体育大学実習生8人
CCC株式会社スタッフ12人
鹿屋体育大学海洋スポーツセンター副センター長 榮樂 洋光氏
霧島山岳会会長 南竹 成己氏



7 日 程

10/21(土)		10/22(日)	
9:30	受付、開会式	7:00	朝食、退所点検
10:00	アイスブレイク	8:00	ステージ2「バイク」 新城海の家～宮脇公園
11:00	環境学習、グループ学習	10:00	ステージ3「ハイク」 新城海の家～眺望地点
12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	ステージ1「カヤック」 新城海の家周辺	13:00	ふり返り
18:00	夕食	14:00	閉会式、解散

8 事業運営上の配慮

- 片付けまで参加者がやりきれるように、時間に余裕を持ったスケジュールとした。
- 実習生が主体性を持って参加できるよう、事前のミーティング・準備・役割分担を行った。

9 参加者の感想

- 水の大切さ、水に感謝したいと思った。 ○水はどの生物、どの場所にも関係あることが分かった。
- 水に対しての価値観や新しい知識が増えたことで様々なことに気づき、考えることができた。
- 地球全体の水が入れ替わるまで3,200年かかることが分かったので、今よりもきれいな海をいつまでも保っていけるように、ゴミを拾ったり、気にしていきたい。

10 成果と課題(●は課題)

- 地域の団体から講師やスタッフなどの人手の協力をいただけたこと、そして企業からは協賛金をいただけたことで本事業が運営・実施できた。
- スタッフとしての実習は、ボランティアは未経験であったため、事前に研修や練習等を入れることで、当日も十分な指導と安全な活動が実施できた。
- 今回は企業の協賛金のみで実施したが、次回以降は事業費を計上できるよう検討が必要である。
- montbell との連携において、montbell やSEA TO SUMMIT の公式ページに、取り上げてもらう方法を検討する必要がある。



令和5年度体験活動普及啓発事業

日帰り親子ハイキング教室

1 趣 旨 ハイキングや登山を身近に感じてもらうとともに、チャレンジ精神を養い、達成感を味わう。

2 期 日 第1回：11月5日(日) 咲花平コース
第2回：11月12日(日) 万滝コース
第3回：11月26日(日) 咲花平コース
第4回：12月16日(土) 鳴之尾コース
第5回：12月23日(土) 咲花平コース

3 対象者 体験活動に興味のある家族

4 募集定員 各回30人程度

5 参加者 第1回：32人 第2回：23人 第3回：18人 第4回：48人 第5回：17人

6 指導者 大隅青少年自然の家職員

7 日 程



【晴天プログラム】第1回、2回、3回、5回		【雨天プログラム】第4回	
9:00	集合・受付	9:00	集合・受付
10:00	ハイキング開始(往路)	9:15	館内オリエンテーリング
12:00	昼休憩	11:00	昼休憩
13:00	ハイキング開始(復路)	12:00	スポーツクライミング・ニュースポーツ
15:00	終了・解散	15:00	終了・解散

8 事業運営上の配慮

- ハイキング初心者でも楽しく参加できるよう、適度な運動量と達成感のあるコースを選定した。

9 参加者の感想

- 親子で参加して楽しい時間を過ごせた。
- 距離や登りも程よく、また参加したい。
- 疲れたが素晴らしい景色を見ることができてよかった。

10 成果と課題(○成果 ●課題)

- 日帰りハイキングにちょうど良いコースを見つけることができた(咲花平)。
- 多くの参加者に、ハイキングや自然体験の有意義さを普及することができた。
- 咲花平までの車移動が長い(マイクロバスで50分程度)。
- 山道の歩き方等、専門的な助言ができなかったため、研修等を通して専門知識を身につけたい。



令和5年度鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業 鹿屋体育大学との連携による おおすみくん家 スポーツキャンプ ～野球～

- 1 趣 旨 鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。
- 2 企画運営 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
- 3 共 催 国立大学法人鹿屋体育大学
- 4 期 日 令和5年7月22日（土）
- 5 対 象 者 中学校野球部員及び指導者
- 6 募集定員 80人程度
- 7 参 加 者 8チーム86人（申し込み同数）
- 8 指 導 者 鹿屋体育大学野球部 監督 藤井 雅文氏及び部員



9 日 程

7月30日（土）	
8:30	受付（鹿屋体育大学）
9:00	開講式
9:00	練習①（鹿屋体育大学野球部による指導）
12:00	昼食・休憩
13:00	練習②（鹿屋体育大学野球部による指導）
17:00	閉講式
17:10	解散



- 10 事業運営上の配慮
指導者と細かな打合せを行い、個別指導や体力の測定など参加者のニーズに合わせた活動とした。
- 11 参加者の感想
○技術が向上して楽しかった。
○いろんな質問ができた。
○細かい技術面の指導がありがたかった。
○他のチームとの交流もできて新鮮だった。
○測定の際に、中学生の基準をわざわざ持ってきてくださり感謝でした。
○丁寧な指導や、声かけ、野球に臨む姿勢が子どもに伝わったと思います。
- 12 成果と課題（○成果 ●課題）

- 全チームが、全てのメニューをこなせるようにローテーションで活動ができた。
- 専用機器の測定結果をもとに、自分の現在の能力や長所、課題等を把握し、練習に生かした。
- 当日宿泊して次の日に練習試合を組む学校があり、交流の輪が広がった。
- 大学と中学校の双方の予定を加味して実施時期を決定し、参加校を増やしたい。
- 案内が届かず直接問合せをする団体があったので、広報範囲・方法を精査する必要がある。



令和5年度鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業 鹿屋体育大学との連携による おおすみくん家 スポーツキャンプ ～バスケットボール～

- 1 趣 旨 鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。
- 2 企画運営 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
- 3 共 催 国立大学法人鹿屋体育大学
- 4 期 日 令和5年7月29日（土）～30日（日）
- 5 対 象 者 中学校バスケットボール部員及び指導者
- 6 募集定員 80人程度
- 7 参加者 1チーム27人（申し込み同数）
- 8 指 導 者 鹿屋体育大学男子バスケットボール部 監督 三浦 健 氏
鹿屋体育大学女子バスケットボール部 監督 前村 かおり氏
鹿屋体育大学女子バスケットボール部 コーチ 藤原 こころ氏
鹿屋体育大学男子及び女子バスケットボール部員



9 日 程

7月29日（土）	7月30日（日）
12:30 受付（鹿屋体育大学）	9:00 練習②（バスケットボール部による指導）
13:00 開講式	12:30 閉講式
13:30 練習①（バスケットボール部による指導）	13:00 解散
17:00 練習①終了	

- 10 事業運営上の配慮
指導者と細かな打合せを行い、個別指導や体力の測定など参加者のニーズに合わせた活動とした。
- 11 参加者の感想
- 1人1人付いてもらって、とても分かりやすかった。
 - こまめに水分補給の時間を設けてくれて良かった。
 - 丁寧に案内してくれて良かった。
 - 今後の指導に活かしていきたいと思う。

12 成果と課題（○成果 ●課題）

- 各個人のレベルに合わせて、丁寧に指導していただき、指導者も参加者も喜んでいました。
- 参加者から、鹿屋体育大学バスケットボール部員に積極的に質問をしていた。
- 今後、参加校を増やせるよう開催時期を検討する必要がある。
- 個人参加を可能にするか、今後検討する必要がある。



令和5年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業

ロボプロキャンプ

- 1 趣 旨 ロボット操作やプログラミング学習を体験することで、論理的な思考を身につけるとともに自分の進路や将来を考えるキャリア教育の機会とする。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
- 3 企画運営 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会
- 4 期 日 令和5年9月16日(土)～17日(日) 1泊2日
- 5 対象者 小学5・6年生、中学生
- 6 募集定員 30人程度
- 7 参加者 29人(小学生16人 中学生13人) 申し込み：117人
- 8 指導者 都城工業高等専門学校 情報処理部 4人
鹿児島工業高等専門学校 Robogals Kagoshima 7人
国立大隅青少年自然の家職員2人 法人ボランティア4人



9 日 程

【1日目】		【2日目】	
12:45	集合・受付	6:30	起床
13:00	開講式 出会いのつどい	6:45	野外炊飯
13:30	プログラミング体験 都城高専情報処理部	8:00	テント撤収
16:45	テント設営	9:00	プログラミング体験 鹿児島高専 (Robogals Kagoshima)
17:15	野外炊飯	12:15	閉講式
20:00	入浴	12:30	解散
20:45	星空観望		
21:45	就寝		

10 事業運営上の配慮

- 講義や活動を円滑に進行するため、班構成を各プログラムの内容に応じて組み換えた。

11 参加者の感想

- 苦手なプログラミングが少し楽しく感じた。
- プログラミングもキャンプもとてもよかった。
- 2つの高専から来ていただいてとてもよかった
- キャンプ飯作りが楽しかったし、勉強にもなった。

12 成果と課題 (○成果)

- 各高専との連携を強化することができた。
- インドア体験(プログラミング)とアウトドア体験を両立した初の事業であったが、全ての参加者より好評価を得ることができた。



令和5年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業 登山教室～学ぶ！体験！みんなでチャレンジ！～

- 1 趣 旨 登山を通して、自然と関わることの素晴らしさやスポーツとしての登山の楽しさを味わう。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大隅青少年自然の家
霧島山岳会
- 3 企画運営 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
- 4 期 日 令和5年11月18日（土）～19日（日）1泊2日
- 5 参加対象 小学5年生～中学生
- 6 募集定員 20人
- 7 参加者 小学生14人、中学生3人（申し込み37人）
- 8 指導者 霧島山岳会 南竹成己氏、浜田拓夢氏 国立大隅青少年自然の家職員
- 9 日 程



11/18（土）	10:00 受付 10:30 開講式、オリエンテーション 11:00 高隈山についてのお話 12:00 昼食 13:00 グループ活動 チームビルディング「山に登ってみよう」 15:00 バス移動 16:00 御岳五合目（25番） テント泊準備 17:00 夕食・片付け（日の入り時刻17:30頃） 19:00 就寝（ソロテント泊）	
11/19（日）	3:30 起床・朝食 4:30 出発 6:30 御岳山頂着（日の出時刻6:40頃） 7:00 御岳出発 8:00 妻岳分岐点 休憩 行動食補食 9:00 妻岳山頂着 9:30 妻岳分岐点 10:30 エスケープルートから林道 昼食 12:00 御岳五合目着 13:00 自然の家本館 シャワー・片付け 14:30 閉講式 15:00 解散	《 荒天時 》 館内でのコンパスなどを 使用した登山技術講習な ど。

10 事業運営上の配慮

山中でのテント泊当日のスケジュールに合わせた実踏ができた。
霧島山岳会との打合せが、メール等で頻繁に行った。

11 参加者の感想

- みんなが楽しく登山できた。楽しかった。
- 山に登ってつらかった。でも、山頂からの景色がよくて良かった。
- 滑ったりして大変だったが、景色がきれいだったので、達成感がばつぐんでした。
- 高隈山がいつもより距離が長く感じた。来年もあつたらやりたい。

12 成果と課題（○成果 ●課題）

- 当日のスケジュールに合わせた実地踏査ができたため、時間配分や安全管理が確実にできた。
- ゴールが明確なため、参加者の達成感につながった。
- 目的や安全を考慮して参加人数・講師・ボランティアの数を事前に精査しておく必要がある。



令和5年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業 スポーツクライミング教室

- 1 趣 旨 スポーツクライミングを身近に感じてもらうとともに、困難に立ち向かうチャレンジ精神を養成する。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
- 3 企画運営 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
- 4 期 日 第1回：令和5年12月10日（日）
第2回：令和5年12月17日（日）
第3回：令和5年12月24日（日）
第4回：令和6年 1月21日（日）
第5回：令和6年 1月28日（日）
- 5 参加対象 体験活動に興味のある子ども（小学生）・家族
- 6 募集定員 各回30人程度
- 7 参加者 第1回：25人（申込人数：150人） 第2回：27人（申込人数：142人）
第3回：28人（申込人数： 89人） 第4回：35人（申込人数：135人）
第5回：30人（申込人数：149人） 計145人（申込人数：665人）
- 8 指 導 者 鹿屋体育大学 講師 坂口 俊哉 氏
鹿屋体育大学 学生 5名
国立大隅青少年自然の家職員



9 日 程

全回共通	
9:30	受付
9:50	開講式
10:00	スポーツクライミングについて（説明）
10:30	体験開始
12:00	体験終了・アンケート記入・閉講式

10 事業運営上の配慮

- (1) 指導者の人数を安定的に確保するために、鹿屋体育大学の坂口氏に協力いただいた。
- (2) クライミング体験中心のプログラムではあったが、スラックライン体験ブースも設置することによって、待ち時間の短縮を図った。
- (3) 多くの方がスポーツクライミング体験をできるように、各回で参加者が重複しないように抽選した。

11 参加者の感想

- 何度も挑戦して、成功する達成感を味わうことが出来た。
- 待っている間にも、クライミングについて教えてもらえて良かった。
- 実際にやってみると、見るよりも大変だったが、楽しかった。
- ずっと挑戦してみたかったので、体験することが出来て良かった。

12 成果と課題（○成果 ●課題）

- 大人も子どもも、たくさんの方にクライミング体験を楽しんでもらうことが出来た。
- 頂上まで登りきることで自信につながり、レベルアップを目指したいという向上心も見られた。
- 家族やグループでも、本施設でクライミング体験をできることを知ってもらうきっかけとなった。
- 全5回開催しても参加できていない人が多くいるため、実施形態を検討していく必要がある。
- 指導者及び人数、保険への加入等を早い段階で決定する必要がある。



令和5年度生活・自立支援キャンプ事業 「子ども生き生き体験学習」

- 1 趣 旨 児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験及び生活体験の活動を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。
- 2 期 日 令和5年7月26日(水)～27日(木) 1泊2日
- 3 対象者 社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団 児童養護施設 仁風学園 ※前年度に決定済み
- 4 募集定員 15人程度
- 5 参加者 14人(児童10人・引率者4人)
- 6 指導者 鹿屋市漁港職員 大隅青少年自然の家職員2人

7 日 程

7月26日(水)	7月27日(木)
11:00 出合いのつどい・オリエンテーリング	6:00 起床・身支度
12:00 昼食(レストラン)	7:30 朝食(レストラン)
13:00 磯遊び(高須海水浴場)	9:00 鹿屋市漁港での体験 (餌やり・施設見学・魚解体ショー)
16:00 野外炊飯(バーベキュー)・花火	13:00 別れのつどい
21:00 就寝	

8 事業運営上の配慮

- 参加児童の興味・関心を施設担当者から丁寧に聞き取り、それをもとに関係機関と綿密な打合せを行い、活動に取り入れた。
- 活動毎に、内容確認と参加児童の現状について担当者と打合せを行い、無理なく活動ができた。
- 休憩時間や水分補給時間の確保及び児童への確認など、熱中症対策を行った。

9 参加者の感想(◎子ども ○引率者)

- ◎ 海でたくさん遊べた。
- ◎ バーベキューができてうれしかったし、楽しかった。
- ◎ 魚がおいしかった。
- ◎ 船の風が気持ちよかった。
- 普段見ることができない現場で、子どもたちが興奮していた。
- 磯遊び・バーベキューともに子どもたちが楽しそうだった。
- 海水浴で思いっきり遊べて満足そうでした。

10 成果と課題(○成果 ●課題)

- 普段経験できない活動ができ、子どもや引率者ともに充実した時間となった。
- 海水浴活動では、人数把握が難しい場面があった。人員配置や役割分担を、より明確にする必要がある。
- 同一施設は3年間までであるため、令和7年度には別の施設との事業になる。本年度中に、連携できる施設を検討していく。



令和5年度教育事業 ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、
野外活動等の指導・支援ができるボランティア
及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和5年6月3日(土)～4日(日) 1泊2日
- 3 対象者 高校生・大学生(短大・専門学校生を含む)・一般
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参加者 宿 泊：37人(高校生31人、大学生6人) 申し込み：41人
日帰り：2人(社会人2人) 申し込み：3人
- 6 指 導 者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター准教授 福満 博隆 氏
株式会社大塚製薬工場 永瀬 努 氏
垂水市消防署救急隊員4人
国立大隅青少年自然の家職員4人、法人ボランティア2人



7 日 程

6月3日(土)	6月4日(日)
9:00 受付・開講式	6:00 起床・寝具整理・清掃
10:00 講義「青少年教育施設における体験活動」	7:30 朝食(レストラン)
11:40 講義「青少年教育施設の現状と運営」	9:00 実習「自然体験活動の安全管理」 (普通救命講習Ⅰ)
12:40 昼食(弁当)	12:00 昼食(弁当)
13:30 講義「ボランティア活動の意義」	13:00 講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:10 講義「熱中症予防・対策講義」	15:10 閉講式・解散
16:00 実習「ボランティア活動の技術」(野外調理)	
20:30 入浴・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 最初の講義で、アイスブレイクを行い2日間楽しく参加できるように工夫した。
- 各講義の中で、座学の時間が長くなりすぎないように、途中にアクティビティなどを取り入れた。

9 参加者の感想

- 自然や社会と関わる力を得ることができた。
- 交流を深めることができて楽しかった。
- 最初は不安だったが、交流等を通し、良い時間を過ごせた。
- 普段体験することのできない活動をしたり、話を聞いたりできた。
- 1日目自然の中にいるのに室内ばかりだった。

10 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 事業終了後、法人ボランティアとして31名の登録があった。
- 学校、年齢、性別関係なく、交流を深めて活動に取り組んでいる姿が見られた。
- もう少し実技の時間を増やすなど、プログラムを工夫し、充実した2日間としたい。



鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業 フェスティバル秋 in AMU 広場

- 1 趣 旨 文部科学省「子供の体験活動推進宣言」（令和4年）の実現に向けて、官民が連携し、コロナ禍で奪われた子供の体験の機会を提供するとともに、家族や一般の方々に体験活動の重要性を啓発する。
- 2 期 日 令和5年9月10日（日）
- 3 参加対象 体験活動に興味のある家族・一般の方々
- 4 来場者数 9, 132人
- 5 協力団体 県アジア・太平洋農村研修センター、県上野原縄文の森、県立青少年研修センター、県立奄美少年自然の家、県立霧島自然ふれあいセンター、県立南薩少年自然の家、鹿児島市立少年自然の家、出水市青年の家、薩摩川内市立少年自然の家、県国体・全国障害者スポーツ大会局、県総合体育センター、県霧島アートの森、シャボン玉石けん株式会社、株式会社サクラクレパス九州営業所 以上14団体

6 場 所 JR鹿児島中央駅前AMU広場

7 日 程

時間	内容
8:30	各ブース搬入開始
9:00	全体朝礼
10:00	イベント開始
15:00	イベント終了
15:30	全体終礼・解散
16:00	会場撤去



8 事業運営上の配慮

- 企業や関係機関の新規獲得のため、訪問や説明を丁寧に行い、参加団体を増やすことができた。
- 職員が足りないブースでも、2ブースをボランティアが担当するなど工夫した。
- JR九州エージェンシーと連携して、各ブースの広さや配置を工夫し、来場者の動線に配慮した。

9 参加ブースの感想

- 会場の雰囲気がとても活気があり、お客様も私たちも楽しくあっという間に終わりました。
- 県内の方々に施設について知っていただける貴重な機会ですので、来年もぜひ参加したいです。
- こちら施設の宣伝にもなるので、このような場を設けていただき、非常に有難いです。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 企業などの新規参加や群像前広場への活動エリア拡大のため、昨年度を大きく上回る来場者となった。
- 今年度のように、関係機関や企業など新規連携先を検討・拡大していく。
- ボランティア確保の手立てを工夫する。



令和5年度 教育事業「ふれあいデーフェスティバル冬 in おおすみくん家」

- 1 趣 旨 一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。
- 2 期 日 令和5年12月2日(土)
- 3 参加対象 体験活動に興味のある家族
- 4 協賛企業 有限会社森伊蔵酒造、鹿屋市漁業協同組合、垂水市漁業協同組合、有限会社泰夫水産
大海酒造株式会社、株式会社桜島
- 5 参加者 330人
- 6 協力団体 県立青少年研修センター、県立南薩少年自然の家、出水市青年の家、県上野原縄文の森、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター、県立霧島自然ふれあいセンター、県立鹿屋農業高等学校、県立鹿屋工業高等学校、都城工業高等専門学校、ドローンOP鹿児島、アウトドアショップキャメル、WADATAダンススタジオ、光華こども園、ねじめ茶寮、Food Truck M(ま一助)、Re;CHART(リチャート)、Food'sビッキョン、国立大隅青少年自然の家レストラン、国立大隅青少年自然の家、法人ボランティア

7 日 程	時間	内容	詳細など
	9:30	受付、開会	出展ブース(クラフト、体験、販売、食事、抽選会など)
	10:15	ステージ①	光華こども園
	11:15	ステージ②	鹿屋工業高等学校吹奏楽部
	12:00	休憩	
	13:15	ステージ③	WADATAダンススタジオ
	15:00	閉会	

8 事業運営上の配慮

- 協力団体を新たに開拓するため、職員間で検討を重ね、新規団体候補へ丁寧な説明を行った。
- 一般開放の事業に適切な保険を選定するため、他施設の情報を集めながら所内で検討を重ねた。
- 新たな広報手段を試行する中で、参加者の減少が見込まれたため、規模の大きい近隣の学校へ直接訪問し、白黒のチラシを配布することで参加者増に努めた。その際、広報方法の変更の意図と今後の方向性について、ヒアリングを行った。

9 成果と課題(●は課題)

- 鹿屋商工会議所や二火会等の協力を得て、協力団体の増加につながった(新規協力団体数7団体)。このように地域に根差した取り組みをする中で、来年度新たな協賛企業も出てきた。
- 一般的に経費が高い紙の広報からウェブ・システムを使った新たな広報の試行・実施できたことは、今後予算確保が難しい中、他事業の広報手段の参考となりえる。
- 既存の運営方法では予算確保が難しく(チラシの作成・発送、保険の購入、スポーツライミングの業務委託費、ボランティア旅費)、見直しに時間を要した。予算計画時、部署を横断した共通理解を進める。
- 広報手段の変更(紙から広報誌、ウェブ、システムへの移行)を現実的に行えるよう、検討にとどまらない具体的な取り組みが今後必要になる(個別に学校訪問やヒアリング、説明など)。また同時に、新たな広報と既存の広報を上手に組み合わせながら、予算内で実施を行い、参加者を確保する必要がある(近隣は実績のある既存の広報、遠方は経費面でメリットのある新たな広報を取り入れるなど)。



令和5年度における傷病発生状況

1. はじめに

令和5年度に、当施設では延べ46,151人の利用者が活動を行った。利用者の健康と安全には所全体で取り組んでいるが、例年数件の傷病が発生している。令和5年度の傷病発生状況について、傷病記録表・病院受診報告書を基に、前年度と比較結果を報告する。

2. 傷病発生総数

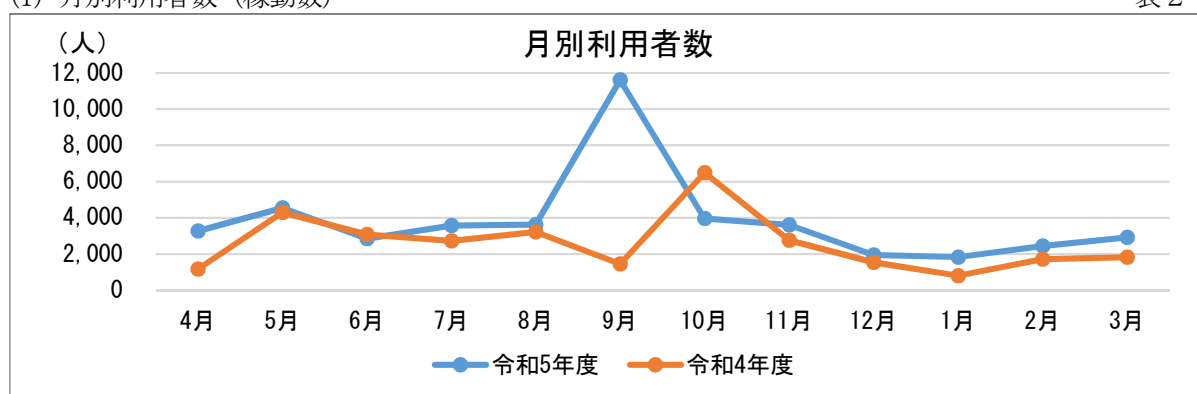
表1

	総数	内科系傷病 (%)	外科系傷病 (%)	利用者数に対する発生率 (%)	利用者数 (稼働数)
令和5年度	65	38 (58.5)	27 (41.5)	0.1408	46,151
令和4年度	46	27 (58.7)	19 (41.3)	0.1481	31,061
令和3年度	47	23 (48.9)	24 (51.1)	0.1979	23,755

3. 月別研修者数及び傷病発生状況

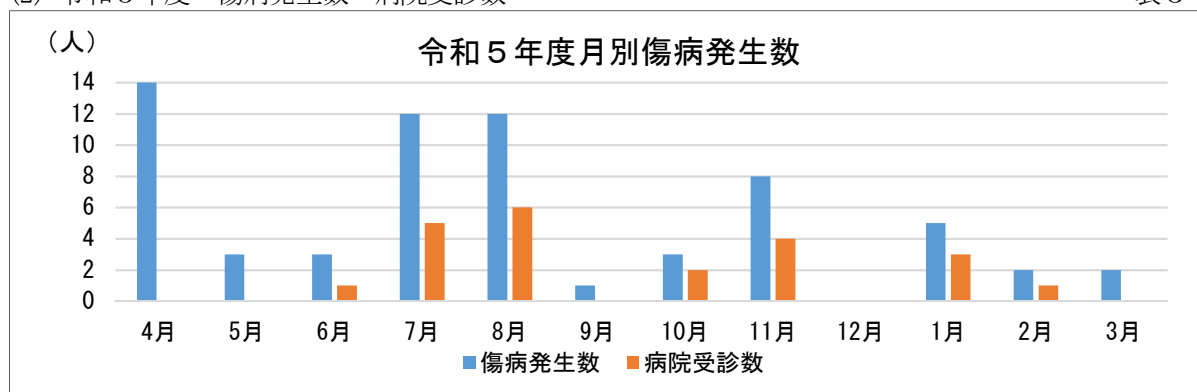
(1) 月別利用者数 (稼働数)

表2



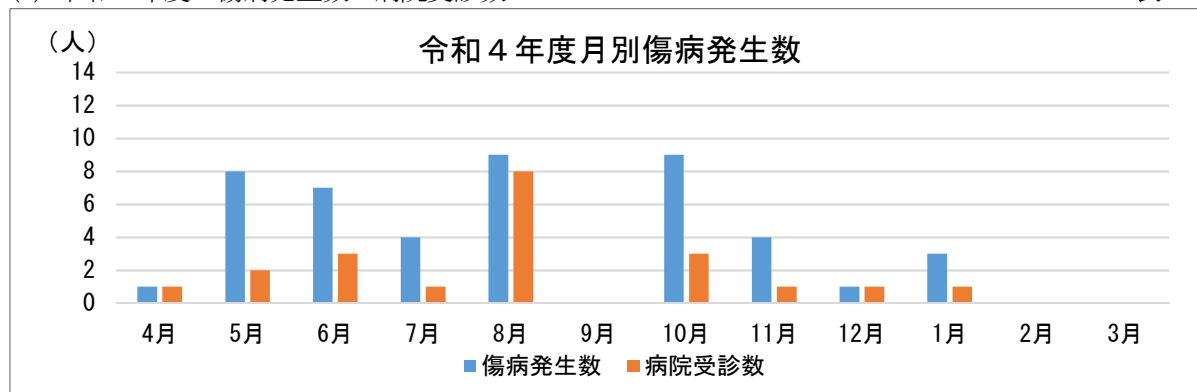
(2) 令和5年度 傷病発生数・病院受診数

表3



(3) 令和4年度 傷病発生数・病院受診数

表4



令和4年度の傷病発生数は、月別研修者数に比例しており、利用者に対する発生率は減少傾向であったが令和5年度の傷病発生数は利用者とは比例しておらず、4・8月は野外活動による虫刺され等の増加が見られた。

病院受診者は、前年度が21人であったものが、本年度は22人とほぼ変化は見られない。

4. 傷病発生順位

表5-1

内科系	令和5年度	令和4年度
1位	発熱	発熱
2位	吐き気	腹痛
3位	頭痛・倦怠感	嘔吐

表5-2

外科系	令和5年度	令和4年度
1位	虫刺され	打撲
2位	打撲・捻挫	擦り傷
3位	切傷・やけど	切傷・捻挫・虫刺され

下表は内科系と外科系それぞれの傷病発生の割合を表したものである。

表6-1

内科系傷病者数 (%)		
	令和5年度	令和4年度
発熱	16 (42.1)	14 (51.9)
吐き気	5 (13.2)	1 (3.7)
頭痛	4 (10.5)	1 (3.7)
倦怠感	4 (10.5)	0 (0.0)
嘔吐	1 (2.6)	3 (11.1)
咳・喉の痛み	1 (2.6)	2 (7.4)
脱水	1 (2.6)	1 (3.7)
生理痛	1 (2.6)	0 (0.0)
発疹	1 (2.6)	0 (0.0)
腹痛	0 (0.0)	4 (14.8)
過呼吸	1 (2.6)	0 (0.0)
その他	3 (7.9)	1 (3.7)
合計	38	27

表6-2

外科系傷病者数 (%)		
	令和5年度	令和4年度
虫刺され	10 (37.0)	2 (10.5)
打撲	4 (14.8)	5 (26.3)
捻挫	4 (14.8)	2 (10.5)
切傷	3 (11.1)	2 (10.5)
やけど	3 (11.1)	0 (0.0)
靭帯損傷・断裂	1 (3.7)	0 (0.0)
すり傷	1 (3.7)	3 (15.8)
鼻血	0 (0.0)	1 (5.3)
目の怪我	0 (0.0)	1 (5.3)
突き指	0 (0.0)	1 (5.3)
刺傷	0 (0.0)	1 (5.3)
その他	1 (3.7)	1 (5.3)
合計	27	19

5. 結果・考察

新型コロナウイルス感染症が拡大して以来、減少していた利用者数も年々増加している。表1を見ると、傷病発生総数は利用者数に比例し増加しているが、利用者数に対する傷病発生率はゆるやかに減少している。

表5・6で内容を確認すると、外科系は虫刺されが増加しており、活動時の服装や注意事項の説明を徹底していきたい。その他は発生数が少なく、安全点検や活動前の事前の周知により、不注意・不適切な行動による受傷が減少したと考えられ、今後も継続していきたい。

内科系疾患については内容に大きな変化は見られないが、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、症状が軽くとも職員や指導者へ相談し、病院受診する傾向にある。今後も衛生管理、安全対策、施設の環境整備に努め、少しでも病気や怪我の発生及び重症化を防止していきたい。

6. まとめ

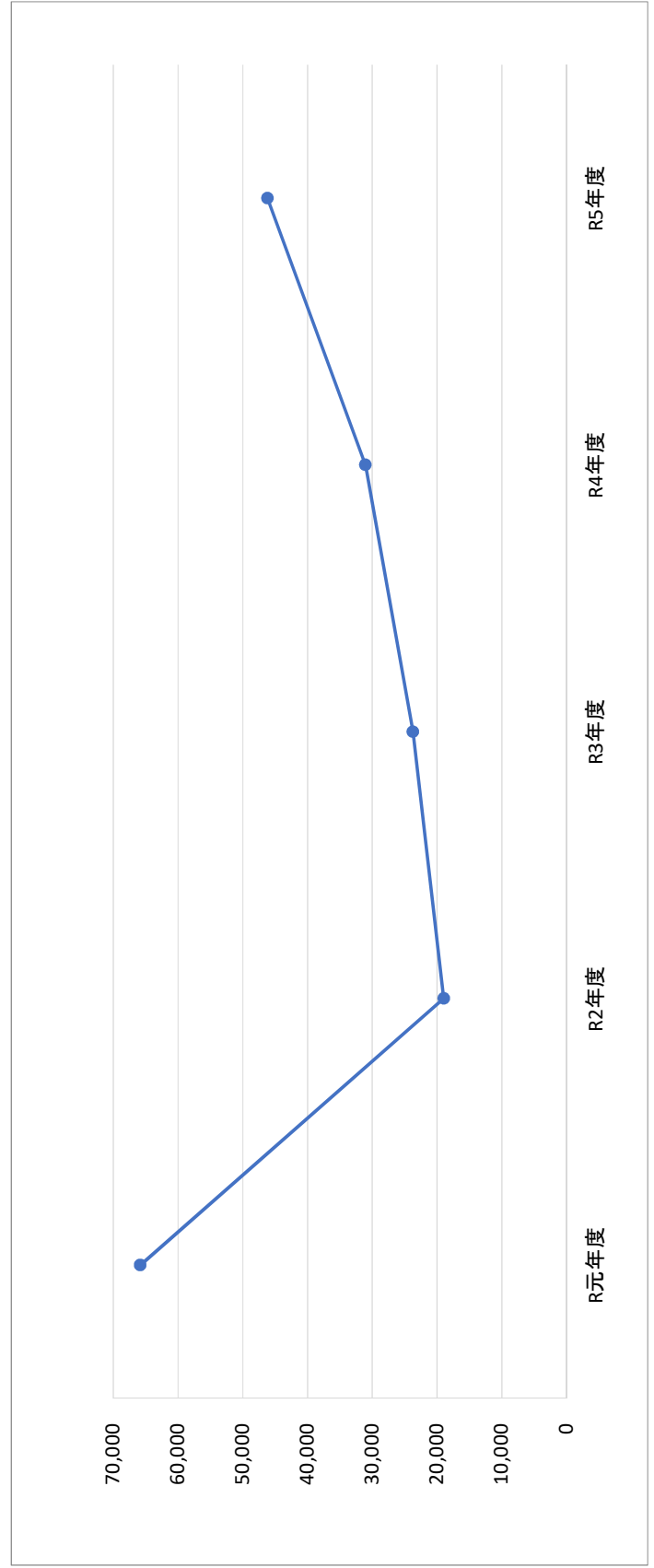
本施設周辺は、広大な自然に囲まれ、自然の美しさ、雄大さ、神秘さを感じることができる。一方で、自然の厳しさ、危険性も考え、利用者が無理なく安全に活動を展開できるよう、施設の管理・整備を充実していかなければならない。また、利用者の危険予知能力を高めるためにも、活動開始前の安全指導をさらに充実していく必要がある。

国立大隅青少年自然の家利用者数の推移

(1) 利用者数の推移

【令和元年度～】

年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
宿泊	団体数	492	171	239	257	272
	実利用者数	15,364	4,378	6,431	7,760	8,865
	延宿泊者数	26,382	6,543	9,058	11,112	14,821
	稼働数	41,387	10,892	15,456	18,844	23,633
日帰	団体数	418	370	429	437	395
	稼働数	23,995	8,032	8,262	12,140	22,476
延団体数	910	541	668	694	667	
稼働数	65,812	18,968	23,718	31,061	46,185	

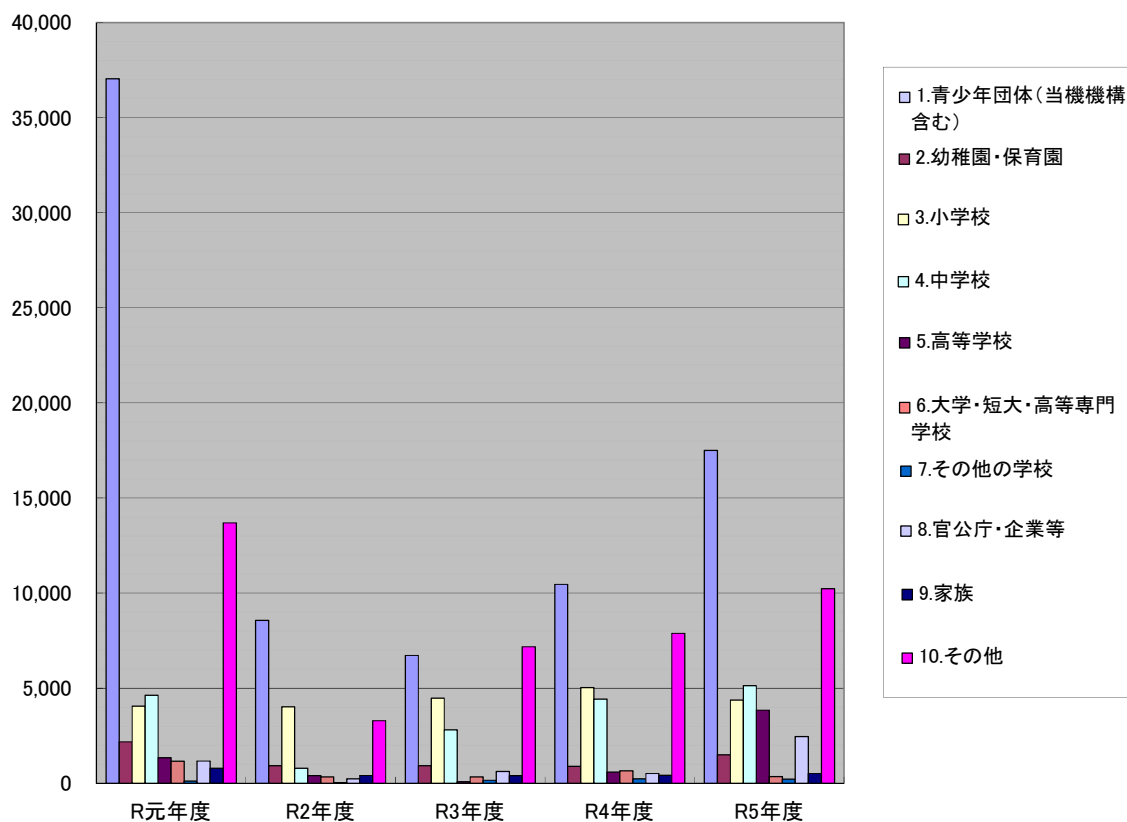


(2) 団体別利用者数の推移

【令和元年度～】(稼働数算出)

団体種	年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	利用形態	稼働数	稼働数	稼働数	稼働数	稼働数
1.青少年団体 (当機構含む)	宿泊	19,889	5,023	5,504	5,834	6,200
	日帰り	17,155	3,542	1,228	4,627	11,298
2.幼稚園・保育園	宿泊	956	102	0	0	284
	日帰り	1,226	827	921	897	1,209
3.小学校	宿泊	3,814	3,097	3,783	4,541	3,917
	日帰り	243	916	698	489	456
4.中学校	宿泊	4,522	540	2,576	3,681	3,438
	日帰り	110	249	233	740	408
5.高等学校	宿泊	1,321	395	58	393	1,061
	日帰り	13	9	30	192	203
6.大学・短大 ・高等専門学校	宿泊	956	150	158	370	66
	日帰り	200	182	177	285	280
7.その他の学校	宿泊	114	0	0	222	212
	日帰り	6	32	158	5	6
8.官公庁 ・企業等	宿泊	934	61	192	231	2,182
	日帰り	237	178	430	279	264
9.家族	宿泊	483	206	243	186	370
	日帰り	306	199	154	229	145
10.その他	宿泊	8,757	1,347	2,942	3,414	5,938
	日帰り	4,929	1,942	4,233	4,474	4,294
合計	宿泊	41,746	10,921	15,456	18,872	23,686
	日帰り	24,425	8,076	8,262	12,217	22,552
総計		65,812	18,968	23,718	31,061	46,185

団体別稼働数合計



令和6年度 国立大隅青少年自然の家運営方針

I 基本的な運営方針

令和6年度は、中期目標期間の4年目にあたり、文部科学省の中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月21日中央教育審議会答申）等を踏まえ、青少年教育のナショナルセンターとして、体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝える運動を推進するため、青少年教育指導者その他の青少年教育関係者（以下「青少年教育指導者等」という。）及び青少年を対象とした事業の実施、研修利用に対する指導・助言等の研修支援、青少年教育関係機関・団体等との連携促進、青少年教育に関する調査研究、青少年教育団体が行う活動に対する助成を実施するとともに、地域の実情に応じ、安全安心な体験活動や集団的宿泊活動等を提供し、青少年教育の振興及び健全な青少年の育成を図る。

II 事業運営に関する重点事項

1 青少年教育の振興及び健全な青少年の育成

施設周辺の自然環境や特色を活かし、自然体験活動や集団宿泊活動をはじめ、多様な体験活動の場と機会を提供し、ナショナルセンターとして、次代を担う青少年の自立に向けた事業を総合的に推進する。

2 教育事業及び研修支援の重点事項

教育事業や研修支援を通して「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」国民運動を連動させて取り組む。また、教育事業と研修支援が連動したプログラムの開発・拡充を目指し、教育事業で実施したことを研修支援の活動プログラムに落とし込む。その際、SDGsやESDの考え方を取り入れ、特色あるプログラムや国土強靱化に資する防災・減災教育プログラムを開発・拡充する。

3 安全安心な教育環境の確保

すべての業務に対して安全への意識を常にもち、利用者や職員にとって安全安心な教育環境を提供する。

4 年度計画の目標達成と事業数の精選・事業費の効率化

第4期中期目標・中期計画で掲げられている年度計画の目標を達成することを目指す。事業目的を鑑み、受益者負担の対象範囲を拡大できる事業は、講師への指導料・旅費やボランティア経費、消耗品費などを新たに事業参加費に計上するなど、事業予算の効率化を図る。

5 新たな視点による事業展開

新しいネットワークを広げ、クラウドファンディングや外部資金等を活用するなど、運営費交付金のみに頼らず事業を実施していくスキームを検討する。

III 教育事業の質の充実と普及

1 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

(1) 青少年教育に関するモデル事業の推進

関係機関・団体や公立青少年教育施設、大学の研究者等と連携した上で、報告書を通して広く青少年教育関係者へ発信する事業を実施する。

① 実践研究事業

長期自然体験活動を通して、豊かな人間性や生きる力を育むとともに、異年齢との交流を図りながら、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援することを目的に「文部科学省委託事業『海からのメッセージ』」を実施する。

実施にあたっては、国立大学法人鹿屋体育大学海洋スポーツセンターと連携を図り、支援・協力もろう。実施後は、鹿児島県内の青少年教育関係者の研修会等において、事業報告を行い情報発信する。

実施方法の留意点については、次のとおりとする。

ア 事業のねらいに対応した実践研究を大学の研究者等と協働で行い、評価を得る。

イ 青少年のための専門性の高いモデル的体験活動を取り入れる。

ウ 体験活動の効果測定等を行い、その重要性の普及に努める。

エ 成果等については、第4期中期目標期間内に報告書を作成する。（令和6年度第2回目作成予定）

② 地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業）

錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんな物でどこから流れ着いたかを考えることを通して、海・自然・人とのつながりに気付かせるとともに、漂流物を使ったクラフト活動を行い、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせることを目的にしたプログラムとしての活動を実施する。

なお、環境教育（海洋）の教育テーマに基づいた特色化事業を、4つの国立青少年教育施設（若狭湾青少年自然の家、江田島青少年交流の家、沖縄青少年交流の家）で連携して成果の発信・普及を図る。

③ 全国高校生体験活動顕彰制度に関連する事業

高校生を対象に、体験活動を通して地域が抱えている課題を自ら見だし、その解決に向けた探求活動を通して、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成することを目的に「『地域探究プログラム』オリエンテーション合宿」を実施する。

(2) 社会の要請に応える体験活動等事業

親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を自然体験活動指導者や絵本専門士等と協働して実施する。

① 青少年を対象に自己成長や自己実現等を図る教育事業

小・中学生を対象に、共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わり協力することで、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自立心や自尊感情を育てることを目的にした鹿児島工業高等専門学校、都城工業高等専門学校と連携して、自分の進路や将来を見据えた「ロボプロキャンプ」を実施する。

② 自然環境を活用した事業

1,000m級の7つの山が連なる高隈山系を活用して、小・中学生を対象に公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成事業「登山キャンプ」を実施する。

③ 地域ぐるみ事業（地域の教育力を高める事業）

鹿児島県内の青少年教育施設、県市町村教育委員会、学校、高等教育機関、青少年団体、企業、NPO法人等と連携して「鹿児島県『体験の風をおこそう』運動推進事業」を展開して、協力団体の拡充に努める。

ア 体験することの楽しさや重要性について普及・啓発を図り、体験活動の推進に向けて、県内の青少年教育施設、地域、近隣の高等学校、関係機関等と連携して、施設の広報を兼ねた「フェスティバル秋 in AMU広場」と「ふれあいデー『フェスティバル冬 in おおすみくん家』」を実施する。

イ 国立大学法人鹿屋体育大学との連携協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援することを目的に、公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成事業「スポーツキャンプ」をバレーボール・野球・バスケットボールの3種目実施する。

さらに、公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成事業SDGs防災フェスティバルを実施する。

④ 読書活動に関する専門的指導者の活用事業

鹿屋市と垂水市の小学4年生から6年生を対象に、集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら、普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、生きる力を育てることを目的にして「おおすみくん家通学合宿」を実施する。その中で、絵本専門士を活用して、読み聞かせなどの読書活動を通して豊かな情操を養う。

(3) 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

青少年を取り巻く今日的課題に対応するため、企画段階から専門機関等と連携・協力し実施する。その際、基本的な生活習慣の確立や人間関係形成力など焦点を定め、参加対象者の状況を踏まえ実施する。

① 児童養護施設に入所する児童を支援する事業

児童養護施設及び母子生活支援施設で生活する子どもたちを対象に、自然体験活動及び生活体験活動を通して基本的な生活習慣の確立等の課題に対応するため、生活・自立支援事業「子ども生き生き体験学習」を実施する。

③ 不登校、引きこもり、ネット依存等の発達障害や身体障害など課題を抱える青少年の支援事業

鹿児島県教育庁高校教育課学校教育生徒指導班と連携して、不登校及び不登校傾向にある小・中学生を対象に、自然体験活動の楽しさや人とのふれあいの大切さを知ることがを目的に、「おおすみくん家に遊びに来ませんか！！」を5回実施する。

2 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供するためには、質の高い指導者を養成することが必要不可欠であることから事業を実施する。

(1) ボランティア養成・研修事業の実施

教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担う法人ボランティアを育成し、青少年教育におけるボランティア活動の一層の推進を図るとともに、ボランティア養成共通カリキュラムに準拠した「ボランティア養成研修」を実施する。

さらに、養成研修後は法人ボランティアとして、上記「1 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業」に関わりスキルアップに努める。

(2) 自然体験活動指導者養成事業（NEAL 養成事業）の参加

令和6年度は九州・沖縄ブロックの輪番で開催することとなり、青少年教育指導者等の資質・能力の一層の向上を図るため、指導者育成の観点から九州地区内の国立青少年施設で開催される自然体験活動指導者（リーダー）養成事業及び自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成事業に、可能な限り、参加する。

IV 研修支援の充実との利用拡大

1 研修利用の充実

宿泊室稼働率26%及び青少年の利用実績を確保するために、「稼働率向上（利用者増加）のための数値目標の設定及び行動計画」を策定し、着実な実施に努めるとともに、利用状況の分析や利用団体に対するアンケート調査を行い、利用促進に向けた方策を検討・実施する。

期 間		年 間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
利用者数 (人)	合 計	53,238	12,115	21,835	10,818	8,470
	日 帰 り	26,845	4,748	13,929	4,346	3,822
	宿 泊	26,393	7,367	7,906	6,472	4,648
宿泊室稼働率 (%)		26.0	21.0	24.0	23.0	36.0

2 活動プログラム等における教育的な指導及び支援の充実と検証

利用団体の特性や目的を把握した上で多様なプログラム提案を行うとともに、適切な指導・助言を行う。

また、引率者を対象としたアンケート（施設利用に関するアンケート調査）によって、教育的指導及び支援の充実に努める。

さらに、活動プログラム等の方法・効果が明確になるよう教材や指導資料等の工夫・見直しを行うとともに、事前打合わせ等でのICT機器の活用に努める。

3 学校との連携・協働による体験活動プログラムの充実

学習指導要領に基づき、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携を強化し、「主体的・対話的で深い学び」が可能となる活動プログラムを各年齢期に応じて提供する。

- (1) 幼児期：自然を活用した幼児期の運動プログラムを活用した場づくり
- (2) 小・中学校：集団宿泊行事等における教科等と関連付けた体験活動プログラムの提供
- (3) 高等学校：「地域探究プログラム」のオリエンテーション合宿の実施

4 利用状況の検証と広報の充実

四半期ごとに利用者数及び施設利用に関するアンケート調査結果に対する増減の要因を検証する。

また、学校、青少年団体、地元関係者等に対する広報は効率的かつ効果的な計画を作成し、確実に実行するとともに、年度末に研修支援等の体制に関する検証を行う。

- (1) 施設業務運営委員会などで幼稚園・子ども園・保育園、小・中学校、高等学校、大学、スポーツ少年団等の年間広報計画（直接訪問計画を含む）を立て、全職員で広報活動に取り組む。
- (2) ホームページの計画的更新に努めるとともに、SNS（フェイスブックやLINE等）の媒体を有効活用して、積極的に事業等の情報を発信する。
- (3) 鹿児島県教育庁社会教育課及び鹿児島県政記者クラブ（青潮会）等との連携を図り、プレスリリースを行うとともに、地元新聞社、テレビ局、ラジオ局のマスメディアを積極的に活用し、広報の充実に図る。
- (4) ファミリー会員制度登録者を対象にして、優先的に事業案内を行い、会員相互の交流及び当施設の利用促進を図る。
- (5) 道の駅、フェリー乗り場等の様々な集客施設や新規の広報箇所（雑誌、地方公共団体等）に協力依頼を行うなど、広報紙配布及び情報提供など効率的な広報に努める。

V 安全安心な教育環境の確保

1 施設における安全管理研修の計画・実施及び安全対策マニュアルの整備

施設における安全研修の年間計画を策定し、全ての事業系職員が安全対策を図った上で指導ができるように研修を行う。

また、「危機管理関係マニュアル点検方針」及び安全点検マニュアル等の点検、見直しを常時行う。

特に、海浜活動をはじめ野外活動時に不測の事態が発生した時は、全職員が迅速かつ適切に対応ができるよう「安全対策マニュアル」に基づいて行動する。

2 安全安心な教育環境づくり

感染症等への対策の徹底を図るとともに、教材教具・活動備品、活動場所等の日常的な点検・整備を通して、安全安心な教育環境を確保する。

また、鹿児島県教育庁大隅教育事務所及び鹿児島海上保安部喜入海上保安署等関係機関と連携し、海浜活動に関する安全対策について協議することを目的として、「海浜活動安全対策協議会」を開催する。

3 緊急連絡網の整備

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、全職員及び本部・関係部署並びに業者等への緊急連絡網を整備するとともに、随時見直し更新を図る。

4 安全管理・衛生管理の徹底

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、日頃から危機的状況を想定し、適切な対応ができるよう体系を構築する。

- (1) 宿泊室やトイレ等の生活環境エリアの不良箇所等の早期発見及び早期修繕を行う。
- (2) 安全管理・衛生管理に関する情報を全職員へ周知徹底する。
- (3) 地形、気象、動植物等の危険要因に関する情報を利用者へ提供するとともに、野外・海浜活動記録簿を活用し、安全対策の指導・助言を徹底する。
- (4) 活動用具や火気等の取扱いの指導を徹底する。
- (5) 感染症及び食中毒の予防の徹底を図るとともに、発生時の迅速な対応を行う。
- (6) 喫煙者の空間分煙を徹底する。
- (7) 定期健康診断及びその他各種検診等を行い、職員の健康増進に努めるとともに、身体及び心の健康に関する相談等の充実を図るなど、職員の健康管理を充実する。
- (8) 人権擁護、セクハラ防止等を徹底するとともに、相談制度を充実する。
- (9) 盗難・盗撮、事故防止等のためのセキュリティ対策を再確認するとともに整備する。
- (10) 情報セキュリティの整備を図る。

5 安全管理・危機管理に関する研修・訓練の実施

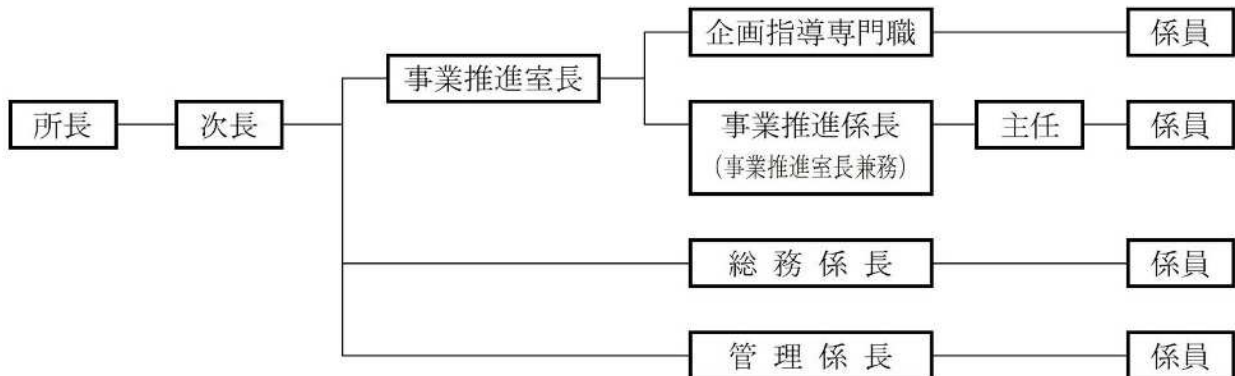
不測の事態等に関して、職員が迅速かつ適切な対応ができるよう、所内研修及び専門訓練等を確実に実施し、技術・熟練度の向上を図る。

6 緊急時の対応（火災・地震・自然災害等）

火災や地震、自然災害等の緊急時における職員の対応として、利用者の安全で速やかな避難、負傷者の適切な救助、汚染拡散防止（二次被害の防止）等に関する知識や技能を身に付けるとともに、防災に関する意識の高揚を図ることを目的に、避難訓練を年2回（火災・地震）実施する。

VI 業務運営に関する事項

1 組織



2 効率的・効果的な組織の運営

(1) 地域と連携した施設の管理運営

施設業務運営委員会の中に、NPO・企業・各種団体等の代表者が、実際に事業の企画・実施や施設の管理運営、施設の利用促進に参画する専門部会を設置し、効率的・効果的な施設の管理運営に努める。

また、地元企業等との連携も視野に入れ、特に青少年教育活動に賛同していただける企業と連携・協力しながら、教育事業を推進していくことも考慮していく。

(2) 計画的な人事評価

個々の能力を最大限に発揮させ、組織の活性化を図り効率的な事業運営に資するため、業績評価を年2回、能力評価を年1回実施する。

3 効率的な予算執行

管理運営経費縮減のため、既定経費の見直しを行うとともに業務の合理化により、対前年比5%以上の縮減を図る。

(1) 光熱水料の節減・節約

冷暖房の細かな運転管理、冷暖房吹出温度・期間の管理及び活動プログラムの調整により、効率的な活動計画を行い、光熱水料削減に努める。

また、利用者に対しても、打合せ時に節減協力の要請を積極的に行う。

(2) 適切な外部委託

外部委託業務の簡素化・効率化を検討し仕様内容の見直し等進めながら外部委託を行うとともに、業務が仕様書どおりに履行されているか日々の状況確認を徹底する。

また、経費の必要性を検討し、職員でその業務の実施をする等、経費削減への対応に努める。

4 自己収入の確保

積極的にクラウドファンディングやネーミングライツなどの外部資金及び自己収入を確保して、事業運営への活用を図る。

(1) 協賛事業の積極的な推進

企業等への当施設のもつ機能の理解促進を図り、外部資金による事業等の実施に努める。

(2) 寄附金の受入の推進

青少年教育活動に理解を得るための広報活動を充実させ、ホームページへの掲載等による企業等からの寄附金の募集を積極的に行い、受入の推進を図り、寄附金の増加に努める。

(3) 受益者負担による収入の確保

自己収入の拡大を図るため、新規の受益者負担及び関連の制度見直しを行う。

(4) 土地・建物等の貸付及び清涼飲料水（自動販売機）の提供委託業務の工夫・改善

土地・建物等の貸付については、利用者の利便性を損なわないよう売店等とする。

また、清涼飲料等（自動販売機）の提供委託業務については、売上を考慮した商品の入替等を行い、手数料収入の増を図る。

(5) 受託実習生の積極的な受入

受託実習生について、受入体制を整備し、連携機関との連携を強化し、受入増を図る。

(6) 受託事業、協賛事業の積極的な事業推進

当施設のもつ機能の理解促進を図り、積極的に外部資金の確保に努める。

5 計画的な施設・設備の改修整備の実施

利用者が快適かつ安心して生活に過ごして、体験活動も効果的に実施されるように施設・設備の改修整備を進める。

また、既存施設・設備について、利用者アンケート、利用状況及び運営委員会等により利用者の意見やニーズの把握に努め、効率的な研修活動が図られるよう必要な改修整備を進める。特に、自然体験活動エリア内において、利用者の安全性を確保するため、緊急性・必要性を勘案し優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備等の改修整備を進める。

さらに、利用者の安全性及び利便性を優先するために、補修箇所を速やかに発見し対応できるよう職員による定期的な巡回の回数、範囲、方法や点検項目等の見直しを図る。

(1) 防災の観点に立った整備

安全な利用者の活動・生活環境の確保のため、老朽化している箇所の改修整備計画を立て、緊急性・必要性を勘案して優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備（インラインスケート場、マウンテンバイクコース等）の改修整備を進める。

(2) 研修環境の確保の観点に立った整備

研修環境の改善として、当施設のキャッチフレーズである「錦江湾・黄金の夕日 大隅」としての眺望を確保するよう環境整備を行う。

(3) 利用者の意見等を反映した整備

教育事業参加者、研修支援における利用者の意見や利用団体活動の多様化に対応するため、施設（管理研修棟・学習棟・宿泊棟・キャンプ場・新城海の家・太陽の家・いろり庵等）における生活環境の整備を進める。

(4) 高齢者及び身体の不自由な方に配慮した改修整備

高齢者及び身体の不自由な方が安心して快適な活動ができるように施設・設備の点検及び改修整備を進める。

I 青少年教育に関するモデル的事業

1 実践研究事業(1ーア)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
1	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。また、不登校など、心に悩みを持つ子どもの幸福度や自己肯定感の向上を図る。実践研究として体験活動の重要性の普及にも努める。	7. 23(火)~28(日) 5泊6日 予備8. 1(木)~6(火)	小学5年生~中学生 不登校等心に悩みを持つ児童生徒を含む	20	鹿屋体育大学海洋スポーツセンターほか

2 地域探究プログラム(1ーウ)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
2	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿	地域の魅力や抱えている課題を自ら発見し探究する活動を通して、物事を深く追究する姿勢や主体的に取り組む態度を養い、実践活動に必要な知識・考え方を習得するとともに、実際の行動へと踏み出し地域に貢献する意欲を高める。	7. 13(土)~15(祝月) 2泊3日	県内高校1・2年生	15	鹿屋市内関係団体

II 社会の要請に応える体験活動等事業

1 自然体験や読書活動等に親しむ事業(2ーア)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
3	おおすみくん家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学校生活を送ることを通じて、望ましい生活習慣や学習習慣を身につける。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。	1月~2月(全6回)内 4泊5日	小学4~6年生	各50	絵本専門士

2 自己成長や自己実現を図る事業(2ーイ)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
4	ロボプロキャンプ	ロボット操作やプログラミング学習を体験することで、論理的な思考を身につけるとともに、自分の進路や将来を考えるキャリア教育の機会となる。	5. 18(土)~19(日) 1泊2日	小学5年生~中学生	20	鹿児島工業高等専門学校 都城工業高等専門学校
5	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 スポーツキャンプ【女子バレーボール】	青少年の体力・運動能力を踏まえ、競技種目ごとに専門的なトレーニング法による指導を受け、参加者のスポーツ技術やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	6. 22(土)~23(日) 1泊3日	中学生部員及びその指導者	60	鹿屋体育大学
6	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 スポーツキャンプ【野球】	青少年の体力・運動能力を踏まえ、競技種目ごとに専門的なトレーニング法による指導を受け、参加者のスポーツ技術やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 20(土)~21(日) 1泊2日	中学生部員及びその指導者	60	鹿屋体育大学
7	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 スポーツキャンプ【バスケットボール】	青少年の体力・運動能力を踏まえ、競技種目ごとに専門的なトレーニング法による指導を受け、参加者のスポーツ技術やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 27(土)~28(日) 1泊2日	中学生部員及びその指導者	60	鹿屋体育大学
8	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業登山キャンプ	登山を通して自然と関わることの素晴らしさや、スポーツとしての登山の楽しさを体験する。山岳での自然体験活動から、自然に生かされていることの体験・理解や、他者より良い関係の構築を学び、子どもたちの生きる力や健やかな心を育む。	11. 2(土)~4(祝月) 2泊3日	小学5年生~中学生	20	鹿屋体育大学 霧島山岳会

III 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業(3ーア)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
9	おおすみくん家に遊びに来ませんか!!①~⑤	不登校及び不登校傾向のある小・中学生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	① 6. 15(土) ② 8. 24(土) ③ 10. 5(土) ④ 12. 7(土) ⑤ 2. 1(土)	不登校及び不登校傾向のある小・中学生	各20	鹿児島県教育庁高校教育課 学校教育生徒指導班
10	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験・生活体験等を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。	8. 27(火)~28(水) 1泊2日	児童養護施設の児童生徒	20	仁風学園

IV 青少年教育指導者等の養成・資質向上研修

ボランティアの養成・研修事業(5ーイa)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
11	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6. 1(土)～2(日) 1泊2日	高校生以上	40	大隅肝属地区消防組合ほか

自然体験活動指導者養成事業(5ーアa)

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
12	NEALリーダー養成事業	青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の資質・能力の向上を図る。	1. 14(火)～16(木) 2泊3日	高校生以上	30	国立阿蘇青少年交流の家

V 独自事業

No	事業名	事業の目的	期間	対象	人数	連携・協力団体
13	宿泊学習等利用者説明会 ①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実する。	①4. 11(木) ②4. 18(木) ③8. 22(木)	学校・青少年団体等の 引率者	各30	
14	子どもゆめ基金募集説明会 【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和6年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	9. 1(日)	申請予定団体	50	
15	フェスティバル秋 in AMU広場	文部科学省「子供の体験活動推進宣言」(令和4年)の実現に向けて、官民が連携し、コロナ禍で奪われた子供の体験の機会を提供するとともに、家族や一般の方々々に体験活動の重要性を啓発する。	11. 10(日)	一般	5000	県内社会教育施設 及び民間企業
16	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 SDGs防災フェスティバル	防災や減災に関する活動や、被災時の生活体験、災害時の応急対策活動の体験、女性の視点からの災害対応、多様性への配慮、自助・共助・公助による生きる力を学ぶ機会を提供する。また、子どもたちに持続可能な開発のための教育(ESD)を目指す。	11. 24(日)	一般	500	県内社会教育施設 及び民間企業
17	フェスティバル冬 in おおすみくん家	一般の方々、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	12. 15(日)	一般	500	県内社会教育施設 及び民間企業

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

一般財団法人九州電気保安協会 鹿屋事業所

医療法人青仁会 池田病院

医療法人和敬会 平和台病院

大隅鹿屋病院

鹿屋衛生管理センター株式会社

株式会社ウォーターテック 西日本支店

株式会社園幸

株式会社南九

株式会社カナザワ

株式会社きたやま

株式会社宮生企画

株式会社コジマ工務店

株式会社坂元電気工事

株式会社桜島

株式会社新生社印刷

株式会社総合印刷

株式会社レモンガスかごしま 鹿屋支店

小鹿酒造株式会社

社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

中外電工株式会社 鹿屋営業所

有限会社洵上事務器

有限会社松久保電機

有限会社森伊蔵酒造

有限会社泰夫水産

有限会社熊南空調システム

ワタキューセイモア株式会社 南九州営業所